

HŌSHANŌ: 芸術と生——対岸から見る福島以後の日本

講師 アマンディン・ダヴレ (キュレーター/モントリオール大学博士課程)

福島を中心とする現在進行形の核災害は、全世界に波紋を広げ、表現者たちに多大な影響を及ぼしつづけてきました。

キュレーター/モントリオール大 (カナダ) 博士課程のアマンディン・ダヴレは、2017年、在カナダ日本人作家を含む美術展『Hōshanō: Art and Life in a Post-Fukushima World (放射能: 芸術と生 - 福島以後の世界で)』をモントリオールのビジュアル・ヴォイス・ギャラリーで企画。

今回は来日中のダヴレ女史を迎え、同展を手がかりに、海外から見た福島の実状と表現者たちの取り組み、さらには日本を取り巻く自己規制と沈黙とのゆくえについて考えます。

言語) 英語 (* 対談中の簡単な要約、質問の通訳あり)

とき) 2017年8月11日 (金/祝) 午後6:00~7:30

ところ) 新井卓写真事務所

横浜市営地下鉄東横線または京急黄金町から徒歩5~10分

定員) 20名/要予約/1,000円 (高校生以下無料)

予約ページ)

takashiarai.com/events/project_monadnock-session-01-amandine-davre/



Amandine Davre
アマンディン・ダヴレ



Ori-dsuru in Onagawa, facing the zone devastated by the tsunami and being rebuilt. Michel Humeault, 2015. Courtesy of the artist.

モントリオール大 (カナダ) 美術史博士課程に2015年秋より所属。現代日本美術と核にまつわる美的表象を研究の主眼とし、博士課程の研究プロジェクトでは、福島以後の日本写真における放射能の概念化と物質化についての検証を行う。著述文献に『ダグレオタイプに見る核問題: 新井卓インタビュー』(トランス・アジア・フォトグラフィー・レビュー、2017年春) などがある。2017年3月9日から4月15日までモントリオールのヴィジュアル・ヴォイス・ギャラリーで開催された「Hōshanō: Art and Life in a Post-Fukushima World (放射能: 芸術と生 - 福島以後の世界で)」を企画、また同年3月10日~11日にモントリアルで開催された「Trinity to Fukushima and Beyond: Rethinking Nuclear Histories and the Global Nuclear Imaginary (トリニティから福島へ、そしてその先へ: 核の歴史と世界的な核の幻想を再考する)」にオーガナイザーとして参画した。